千葉大学附属図書館報
ISSN 1346-6771

nPort

特集
ユートピアの維持と発展のために
―電子ジャーナル利用環境の整備と今後―

新タイトルリスト　電子ジャーナル Ａ to Ｚ 紹介

TOPICS

カラーコピー機が入りました(本館)

電子ジャーナルUniBio導入

雑誌製本　受付中(本館)

申込制ガイダンス　受付中！

No. 10
2004.10
The Chiba University Library Bulletin

Library Topics

カラーコピー機・コピーカード自動販売機 設置（本館）

新館１階コピーコーナーに，カラーコピー機とコピーカード自動販売機を設置しました。カラーは1枚50円，白黒は1枚10円です。図書館所蔵の資料に限り，著作権法の範囲内で複写できます。

電子ジャーナル UniBio Press の3タイトルを導入

国内生物学系電子ジャーナルのUniBio Pressを導入しました。UniBio Pressは，国立情報学研究所（NII）の国際学術情報流通基盤整備事業（通称SPARC/JAPAN ）のパートナー事業です。
2004年は，下記の3タイトルがご利用いただけます。

- Journal of Mammalian Ova Research（日本哺乳動物卵子学会）
- Mammal Study（日本哺乳類学会）
- Zoological Science（日本動物学会）

アクセスはこちらから
図書館ホーム＞電子ジャーナル＞UniBio Press
http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~kikaku/online/EJ/UniBio.html

雑誌製本を受付中（本館）

研究室貸出をしている雑誌の製本を受付中です。雑誌・電子情報係常備の製本請求票に必要事項を記入の上,雑誌とともにご提出ください。今年度から,会計区分と予算センタを記入していただいています。雑誌は製本単位に紐などでまとめ,お持ちいただく前に担当係までご連絡ください。ご協力お願いいたします。

受付期間:～平成16年12月24日(金)まで
担当　:雑誌・電子情報係(ex.2254)

申込制ガイダンス　受付中！

附属図書館では，授業や研究室のゼミなどでご活用いただけるよう，オーダーメイド型のガイダンスメニューをご用意しています。特定のテーマや分野，受講者の情報検索レベル，講習会を行う環境などご希望にあわせて内容を設定いたします。学生のみのグループでもお申込みいただけます。まずは各館の担当係にご相談ください。
また，図書館主催ガイダンスもおこないますので，お気軽にご参加ください。

申込み制ガイダンスについては
図書館ホーム＞ガイダンス＞申込制ガイダンス
http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~kikaku/guide/ordermade.html
各館の担当係

本館	情報サービス企画係	ex.2262, kikaku@ll.chiba-u.ac.jp
亥鼻分館	亥鼻サービス係	ex.5606, ibgaku@ll.chiba-u.ac.jp
松戸分館	松戸図書係	ex.8717, fhtosho@ll.chiba-u.ac.jp

図書館主催ガイダンスのスケジュールはこちら
図書館ホーム＞ガイダンス＞H.16年度後期予定
http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~kikaku/guide/plan.html

表　紙　：　千葉大学附属図書館のwebページより，電子ジャーナルに関するページ

特集

ユートピアの維持と発展のために
－電子ジャーナル利用環境の整備と今後－

附属図書館では，ここ数年来，電子ジャーナルの導入を積極的に推進してきました。その結果，本学は国内でも有数の電子ジャーナル利用環境を備えるに至り，その先駆的な動向は他大学からしばしば注目されています。学内の研究者の皆さんにとっては，電子ジャーナルは研究を進める上で不可欠なツールであり，水や空気のような存在と言ってもよいかもしれません。

しかしながら，こうした環境を整備し維持するには，予算確保，価格交渉，利用支援活動といった地味な裏方の活動が欠かせません。本稿では，電子ジャーナル導入の背景と舞台裏の事情を，附属図書館の視点から紹介していきたいと思います。

1. 本学における学術雑誌提供環境

(1)　雑誌の危機

国立情報学研究所の調査によれば，国内大学等における外国雑誌購読に要した費用は，1990年の約150億円から10年後の2000年には300億円近くに倍増しているにも関わらず，購読タイトルの総数は，約4万から約2万へと半減しているという興味深い数値が示されています。これは，1980年代に欧米で発生した「雑誌の危機」(Serials Crisis)と呼ばれる現象と似た様相を呈しており，学術誌の価格上昇→購読の中止→購読部数の低下→さらなる価格上昇･･･という負の連鎖がその要因として指摘されています。「雑誌の危機」の要因としては，第2次世界大戦後の「ビッグサイエンス」の隆盛による研究成果(学術論文)の爆発的増加，それに伴う学術出版の商業化，それから大手商業出版社による市場の独占などが指摘されています。

本学でも，1991年に約4,000誌を数えた外国雑誌の受入タイトル数は，2001年までの10年間に約2,200誌と半減しており，まさに「雑誌の危機」が静かに進行してきたことが分かります。

(2)　電子ジャーナル導入による利用可能タイトル数の急増

このように，1990年代は冊子体外国雑誌の購読減を余儀なくされた時期ですが，それは，インターネットの普及と電子出版技術の進展を背景として，学術雑誌の電子化が急速に進んだ時期でもあります。電子ジャーナルの出版と並行して，Elsevier社をはじめとする大手の商業出版社は，自ら刊行する全ての電子ジャーナルをパッケージとして提供するというサービスを開始します。Elsevier社のScienceDirectやBlackwell社のSynergyなどがその代表です。

こうした電子ジャーナルのパッケージ販売の登場により，外国雑誌購読をめぐる状況は激変しました。本学でも，平成11（1999）年度のScienceDirect（SD-21）導入を皮切りに，12（2000）年度にはAcademic Press社のIDEAL（後にScienceDirectに統合），14（2002）年度にはBlackwell社（Synergy），Springer社（LINK），Wiley社（InterScience)のパッケージを一挙に導入することで主要5大出版社のパッケージが全て揃い，3,000タイトルを超える外国雑誌がインターネットを通じて学内の端末から閲覧可能となりました。さらに15(2003)年度には，Kluwer社とNature社のパッケージ，生物学系のBioOne，アグリゲータ系パッケージ(ProQuestとEBSCOhost)

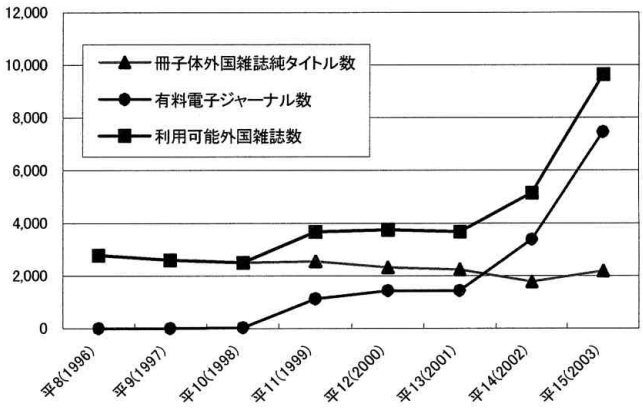


図1　本学の外国雑誌

等を導入し，提供タイトル数は7,000タイトルを越えるに至っています。すなわち，本学においては，過去数年の間に電子ジャーナルの積極的な導入を通じて「雑誌の危機」を乗り越え，研究環境のユートピアというべき，国内有数の学術情報利用環境が整備されてきたのです（図1「本学の外国雑誌」参照）。

2. 舞台裏

(1) 予算確保

電子ジャーナルを積極的に導入し，その利用環境を維持するには，予算の確保という大きな課題を避けて通ることはできません。

文部科学省は，科学技術基本計画の重点4分野の電子ジャーナルの導入を促進するために，平成14年度から3年計画で「電子ジャーナル導入経費」を全国の国立大学に措置しました。この予算をいわば「呼び水」として，各大学で学内的に電子ジャーナルの予算を確保しようという動きが開始されています。

本学の附属図書館も，電子ジャーナルの導入促進の必要性，及び，その安定供給ための全学的経費確保の必要性を全学的に強く訴えかけ，その結果，平成14年度から各部局の外国雑誌購入予算を集約するかたちで電子ジャーナル導入予算が実現しました。この予算により，前述のElsevier社，Academic Press社，Blackwell社，Springer社，Wiley社のいわゆる5大出版社の電子ジャーナルの導入が可能になったのです。

(2) 価格交渉

こうした貴重な予算を利用して，できるだけ多くの電子ジャーナルを購入するために，大学図書館界は，コンソーシアム（図書館共同体）を形成し，交渉力と購買力の強化を図ってきました。日本の国立大学図書館協会も，平成13年9月に電子ジャーナル・タスクフォースという，国立大学の図書館を代表する一元的な交渉窓口を設置し，海外の大手出版社を中心に精力的に交渉を進めています。本学の附属図書館もタスクフォースの設立以来，その活動に積極的協力してきました。その結果，コンソーシアムのスケール・メリットを活かした価格モデルについて合意し，バリュー・フォー・マネー（支払い金額当たりのアクセス可能情報量）の向上を達成することができました。

(3) 利用支援・利用促進活動

さらに，こうして導入した貴重な学術情報資源を学内の研究者の皆さんにできる限り容易に利活用してもらうために，附属図書館ではさまざまな支援活動を行っています。

まず，図書館のホームページ上に，“電子ジャーナルＡ to Ｚ”と呼ばれる電子ジャーナルへのゲートウェイ（利用窓口）を設置しています。

< http://atoz.ebsco.com/home.asp?Id=chunli>

ここでは，本学で利用可能な電子ジャーナルをタイトルのアルファベット順に整理したリスト，主題別にブラウジングできるページが提供されています。また，タイトルに含まれるワードから必要とする電子ジャーナルを検索することができます。勿論，電子ジャーナルのURLの変更や新規の追加も随時フォローされています。さらには，無料で誰もがアクセスできるオープンアクセス誌も数多く含まれています。このゲートウェイを通じて利用者の皆さんは必要とする電子ジャーナルに効率的にアク

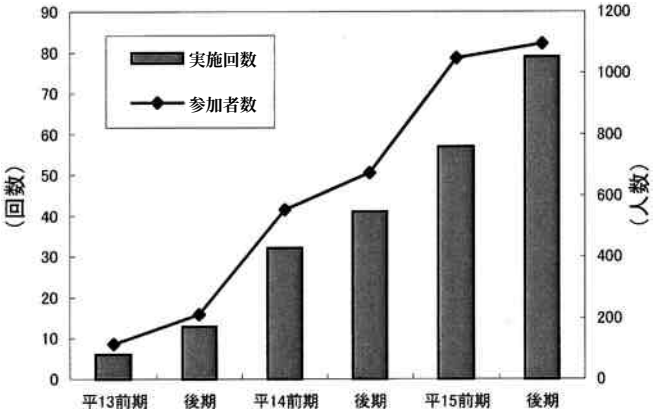


図2　電子ジャーナル関連講習会開催回数と参加者数（累積）

セスすることができますので，ぜひご活用ください。

こうした電子ジャーナルへのナビゲーション支援に加えて，附属図書館では，講習会形式による電子ジャーナル等の利用説明も各キャンパスで開催しています。
<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~kikaku/guide/plan.html>
図書館が企画，主催するガイダンスだけでなく，研究室やゼミの要望に応じて開催するオーダーメイド型の講習会も随時受け付けています。電子ジャーナル関連の内容を含む講習会や利用説明会は，電子ジャーナルの本格的な導入以来，これまでに80回以上開催され，延べ1,000人以上の参加を得ています(図2「電子ジャーナル関連講習会開催回数と参加者数」参照)。

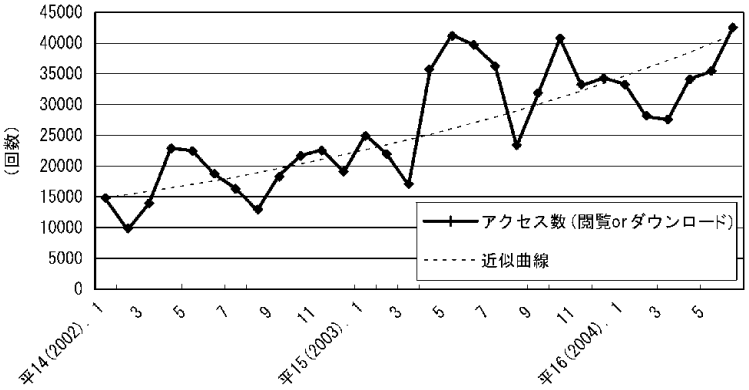


図3　電子ジャーナルへのアクセス数（平成14年～16年）

以上のような利用促進活動の効果は，電子ジャーナルの利用統計に如実に表れています。電子ジャーナルに含まれる論文（フルテキスト）へのアクセス数（画面表示ないしダウンロード数）を見ると，アクセスログを集計しはじめた平成14年以降，一貫して増加傾向を示しています（図3「電子ジャーナルへのアクセス数」参照)。

各年のアクセス集中期（5-6，10-11月）を比較すると，平成14年は月間約2万3千回程度であったものが，翌15年は月間3万5千から4万を超えるアクセスを記録しており，アクセス増加傾向は今後も継続することが予想されます。こうした利用増加には，利用できる電子ジャーナルのタイトル増に加え，図書館がこれまで行ってきた講習等を通じて電子ジャーナルの有用性が学内に浸透してきたこと，図書館ホームページ上の電子ジャーナル･ゲートウェイの利用が定着してきたことが少なからず影響していると推測されます。

3. これから

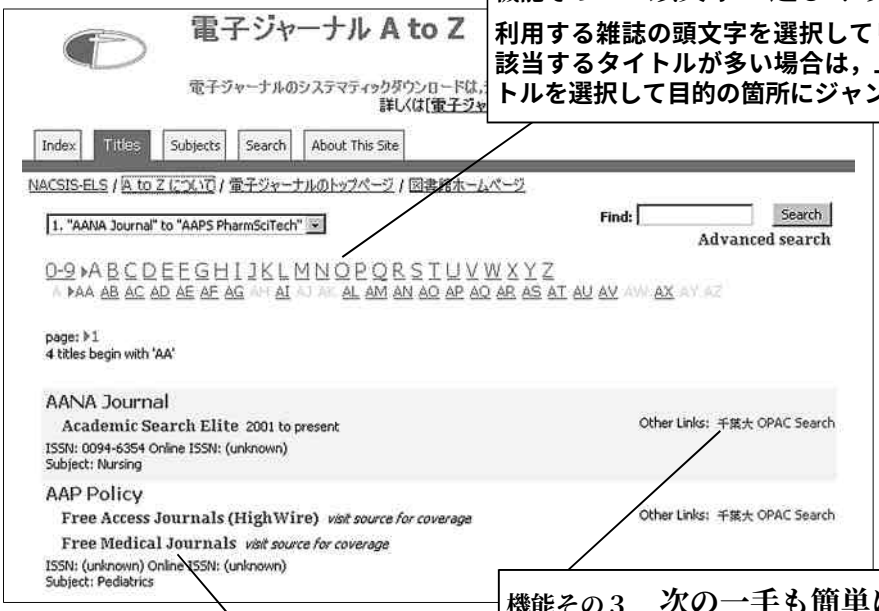
さて，学術雑誌の購読価格は前年比10%前後の高い値上率が2005年も続くという悲観的な調査結果（Serials Prices 2000-2004 with Projections for 2005, EBSCO）が報告されており，このことは，「雑誌の危機」が依然として継続していることを示唆しています。
こうした状況を打破するために，海外の大学図書館はSPARCというプロジェクトを開始し，学術情報流通システムの本来の担い手である学協会や研究者の皆さんと連携し，商業出版社からシステムの主導権を自らの手に取り戻そうという運動を開始しています。また，学術論文への障壁のない無料アクセスを標榜するオープンアクセス運動も地球規模で展開されつつあります。例えば，今のところ1,200誌を越える学術雑誌がオープンアクセス誌として登録されています（Directory of Open Access Journals <http://www.doaj.org/>参照)。

残念ながらこうした取組みにも関わらず，短期的な将来展望の中では，商業出版社の優位性は損なわれることなく，学術雑誌の価格の高騰は今後も続くと予想されます。こうした厳しい現実の中で，今本学に現出しているユートピア的な研究環境を維持し，さらにそれを拡充させていくには，研究者の皆さん自身による主体的な取組み，及び全学的な経費の確保が不可欠であることは言うに及びません。附属図書館は，電子ジャーナルという貴重な学術情報資源と利用者の方々とを結びつける媒体としての役割をこれからも果たしていきたいと考えております。今後とも全学的なご理解とご協力をお願いいたします。

新タイトルリスト

電子ジャーナル A to Z 紹介

10月1日から，電子ジャーナルのタイトルリストが新しくなりました。便利な機能満載で，その名も『電子ジャーナル A to Z』。図書館のホームページからアクセスしてください。



機能その1　頭文字で選びやすく！

利用する雑誌の頭文字を選択してリストを表示します。該当するタイトルが多い場合は，上のプルダウンでタイトルを選択して目的の箇所にジャンプできます。

機能その2　雑誌ごとにまとめて表示！

利用する雑誌がどこから提供されていて，どの期間利用できるかを確認できます。青字のリンクをクリックすると，電子ジャーナルへ。

機能その3　次の一手も簡単に！

必要な年が電子ジャーナルでなかった場合は，千葉大で冊子体を所蔵しているか調べてください。ISSNデータのあるものはクリックするだけで確認できます。

機能その4　雑誌名の検索が可能！

雑誌名，出版社，ISSNで検索ができます。上のアルファベット順リストの画面でも右上「Find:」のボックスから簡易検索が可能です。

機能その5　主題別リストも装備！

主題から雑誌を探せます。これまで知らなかった電子ジャーナルに出会えるかもしれません。

日本の雑誌は基本的には含まれませんのでご注意ください。日本の雑誌は「NACSIS-ELS」などをご利用ください。
詳しい使い方の説明は，画面上の「A to Z について」をクリックすると表示されます。その他，わからないことがありましたら，ejournal@ll.chiba-u.ac.jpまでご連絡ください。

教員からの寄贈著書（平成16年3月～平成16年8月配架分）

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。（50音順　敬称略）

【本　館】

伊藤　公一（フロンティアメディカルセンター）
・人体電磁ファントムに関する調査研究の体系化：ソサイエティ活性化事業. - 電子情報通信学会通信ソサイエティ第三種研究会人体電磁ファントム研究会，[2003]. - 分担執筆
（本館閲覧室3階大型　547.51/JIN）

岩瀬 忠篤（法経）
・消費者から情報社会を考える：生活サービス情報の評価システムの構築をめざして / 岩瀬忠篤著. - 大学教育出版，2004
（本館閲覧室3階　365/SHO）

宇佐美　寛（名誉教授）
・大学授業の病理：FD批判 / 宇佐美寛著. - 東信堂，2004
（本館閲覧室3階　377.15/DAI）

岡本 さえ（普遍教育）
・アジアの比較文化：名著解題：great books on Asia / 岡本さえ編著. - 科学書院. 霞ヶ関出版（発売），2003
（本館閲覧室2階　220.031/AJI）

倉阪　秀史（法経）
・環境政策論 / 倉阪秀史著. - 信山社出版，2004
（本館閲覧室3階　519.1/KAN）
・エコロジカルな経済学 / 倉阪秀史著. - 筑摩書房，2003. -（ちくま新書；447）
（本館閲覧室4階小型　519/EKO）

栗田　誠（専門法務研究科）
・実務研究競争法 / 栗田誠著. - 商事法務，2004
（本館閲覧室3階　335.57/JIT）
・競争法研究ノート / 栗田誠. - 栗田誠，2004
（本館閲覧室3階　335.57/KYO）

栗田　禎子（文）
・イスラーム地域の民衆運動と民主化 / 私市正年，栗田禎子編. - 東京大学出版会，2004. -（イスラーム地域研究叢書；3）
（本館閲覧室3階　312.27/ISU）

柴　佳世乃（文）
・読経道の研究 / 柴佳世乃著. - 風間書房，2004
（本館閲覧室4階　768.28/DOK）

鈴木　敏恵（教育）
・ポートフォリオでプロジェクト学習! / 鈴木敏恵著. - 教育同人社，2003
　・メディアリテラシー「ケータイ電話」
　・地域と学校をつなぐ防災教育：災害に強いまちづくりを提案します!
　・国際ボランティア・IT戦略：コーチング手法導入
（本館閲覧室3階　375/MIR）
・未来教育ポートフォリオ解説書(全3冊) / 鈴木敏恵著. - 教育同人社，2003
（本館閲覧室3階大型　375/ISH）
・こうだったのか!!ポートフォリオ：「総合的な学習」「教科」：成長への戦略：思考スキルと評価手法 / 鈴木敏恵著. - 学習研究社，2002
（本館閲覧室3階　375/KOU）
・これじゃいけなかったの!?総合的な学習：これが成功戦略!!ポートフォリオ評価プロジェクト学習 / 鈴木敏恵著. - 学習研究社，2002
（本館閲覧室3階　375/KOR）

時實　早苗（文）
・ポール・ド・マン：脱構築と美学イデオロギー批判 / クリストファー・ノリス [著]；時実早苗訳. - 法政大学出版局，2004. -（叢書・ウニベルシタス；790）
（本館閲覧室4階　901/DE）

中窪　裕也（法経→2004.4転出）
・国立大学法人の労働関係ハンドブック / 和田肇，野田進，中窪裕也著. - 商事法務，2004. - 共著
（本館閲覧室3階　377.13/KOK）

中里　知恵子（元外国語センター）
・教育音声学：論文集 / 中里知恵子著. - 日本英語音声学会，2004. -（叢書英語音声学シリーズ；第4巻）
（本館閲覧室4階　831.1/KYO）

長谷川　秀樹（社会文化研究科）
・多文化主義とは何か / アンドレア・センプリーニ著；三浦信孝，長谷川秀樹訳. - 白水社，2003. -（文庫クセジュ；861）
（本館閲覧室4階小型　316.853/TAB）
・フランスの人権保障：制度と理論 / 山下健次，中村義孝，北村和生編. - 法律文化社，2001. -（立命館大学人文科学研究所研究叢書；14）. - 分担執筆
（本館閲覧室3階　316.1/FUR）

半田　吉信（専門法務研究科）
・ヨーロッパ統一契約法への道 / ユルゲン・バセドウ編；半田吉信 [ほか] 訳. - 法律文化社，2004
（本館閲覧室3階　324.93/YOR）

村山　元英　（名誉教授）
・空港文化・新企業戦略：空の民営街道論 / 村山元英著. - 文眞堂，2004
（本館閲覧室3階　687.9/KUK）
・「空港と都市」の円卓フォーラム：平成14年度中京大学特定研究助成プロジェクト. - 中京大学空港民営化研究チーム，2004. - 研究チームメンバー
　・第1回：世界と結ぶ中部国際空港：空港の民営化と都市活力の基礎研究
　・第2回：英国の民営化方式の実態を探る：英国空港会社の民営化について
　・第3回：都市国家型の中部地域開発論を探る：地域インフラの民営化とPFIの空港経営
　・第4回：「空港ビジネス/空港文化圏」の中部日本型開発戦略の提言：［中部国際空港］開港後の本格的活用をめざして
　・第5回：世界空港の現地研究からの提言：中部国際空港を世界に開く
（本館閲覧室3階大型　687.9/KUK）

【亥鼻分館】

伊藤　晴夫　（大学院医学研究院）
・前立腺がんの話 / 伊藤晴夫著. - 悠飛社，2004
（亥鼻閲覧室　WJ752）

小室　一成　（大学院医学研究院）
・講義録循環器学 / 小室一成編集. - メジカルビュー社，2004
（亥鼻閲覧室　WG 18）

服部　孝道　（大学院医学研究院）
・一目でわかる内科学 / パトリック・デーヴィ編；新倉春男監訳；岡田定[ほか]訳. - メディカル・サイエンス・インターナショナル，2004. - 共訳
（亥鼻閲覧室　WB115）

正木　治恵　（看護）
・老年看護学 / 正木治恵著. - 放送大学教育振興会，2004
（亥鼻閲覧室　WY152）

山口　正視　（真菌セ）
・電顕入門ガイドブック / 日本顕微鏡学会編. - 学会出版センター，2004. - 編集委員
（亥鼻閲覧室　549.97）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

新着資料紹介　新着資料の中から毎回数点ずつご紹介します。

第５版　実験化学講座　日本化学会編（全30巻・刊行中）

－本館閲覧室3階　432.08//JIK

12年ぶりに全面改訂される，化学実験書のスタンダードです。4巻からなる「基礎編」が新たに設けられました。2005年9月までに全30巻が刊行される予定となっています。

Epson museum 美の巨人たち　日本経済新聞社原作・監修　（全6巻・DVD）

－亥鼻視聴覚　699.63//DIS

亥鼻分館の前・分館長であり，美術に造詣の深い安達恵美子先生から御寄贈いただいた，テレビ東京系人気番組の傑作選DVDです。単なる作品紹介に留まらない＜美の巨人＞たちの人間像に迫るドキュメンタリー仕立ての美術エンターテインメント作品。

マインド・リラクゼーション　（全5巻・DVD）　*－亥鼻視聴覚　146.8*

前述と同様，安達先生から御寄贈いただいた資料です。1.紺碧の海－心の安らぎ　2.森のささやき－明日への回帰　3.大地の息吹－時間からの開放　4.大自然のめざめ－自己回復　5.海からのメッセージ－クジラとイルカに出会う場所　･･･からなる5巻で，自然の緑，果てしなく広がる海の中にピアノやシンセサイザーの音楽が流れ，一時の疲れを癒す作品。

千葉大学附属図書館運営委員会（平成16年7月23日現在）

附属図書館長	遠藤　美光
亥鼻分館長	関谷　宗英
松戸分館長	松井　弘之
総合メディア基盤センター長	野口　博
文学部	小倉　美知子
教育学部	鈴木　彰
法経学部	村山　眞維
理学部	田栗　正章
医学研究院	栗山　喬之
薬学研究院	村山　俊彦
看護学部	本田　彰子
工学部	矢口　博久
園芸学部	三位　正洋
社会文化科学研究科	小倉　美知子
自然科学研究科	稲葉　尚志
専門法務研究科	半田　吉信
医学部附属病院	田邊　政裕
環境リモートセンシング研究センター	建石　隆太郎
真菌医学研究センター	山口　正視
国際教育開発センター	畠　弘巳
フロンティアメディカル工学研究開発センター	高橋　応明
環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センター	上田　善弘
事務局長	山根　徹夫

人事異動

（新任）　平成16年4月1日
附属図書館長（併）
　遠藤　美光（大学院専門法務研究科教授）

（退任）　平成16年3月31日
　草刈　英榮（附属図書館長（併））

（転入）　平成16年4月1日
情報管理課長
　重里　信一
　（長崎大学附属図書館情報管理課長）
情報管理課総務係長
　小澤　英治
　（国立歴史民俗博物館管理部会計課総務係長）
情報サービス課亥鼻サービス係長
　江波戸　登弥子
　（放送大学学園学習センター部図書課図書第一係長）

（転出）　平成16年4月1日
国立歴史民俗博物館管理部財務課総務係長
　鈴木　謙一（情報管理課総務係長）
放送大学学園教務部図書情報課情報管理係長
　佐藤　啓威（情報サービス課相互利用係長）

（配置換）　平成16年4月1日
情報管理課専門官（学術情報担当）
　志賀　秀枝（情報管理課図書館専門員）
情報サービス課専門官（利用支援担当）
　五十嵐　裕二
　（情報サービス課図書館専門員）
情報管理課亥鼻情報係長
　行方　美知子
　（情報サービス課亥鼻サービス係長）
情報サービス課相互利用係長
　田久保　信夫（情報管理課亥鼻情報係長）
情報サービス課松戸図書係長
　林　玲子（園芸学部図書係長）
情報管理課図書情報係主任
　田中　清江（工学部経理係主任）
情報管理課図書情報係
　田川　裕美（情報管理課雑誌・電子情報係）
情報サービス課松戸図書係
　下妻　弘美（園芸学部図書係）
情報サービス課松戸図書係
　松木　尚巳（園芸学部図書係）

（昇任）　平成16年4月1日
情報管理課総務係主任
　合戸　祐子（情報管理課総務係）

（退職）　平成16年3月31日
　京藤　貫（情報管理課長）

（辞職）　平成16年3月31日
　淺野　祐一（情報管理課図書情報係）

行　事　日　誌（平成16年４月～８月）

４月22日	平成16年度関東地区国立大学図書館協会総会（放送大学）
４月23日	千葉市図書館情報ネットワーク協議会（千葉センシティータワー）
５月14日	千葉市図書館情報ネットワーク協議会総会（障害者職業総合センター）
５月21日	平成15年度第４回国立大学図書館協会理事会（東京大学）
６月28日	平成16年度第１回附属図書館運営委員会
７月１日	第51回国立大学図書館協会総会（大阪大学）
７月13日	第56回国公私立大学図書館協力委員会（京都大学）
７月13日	国公私立大学図書館協力委員会平成15年度第2回常任幹事会（京都大学）
７月27日	平成16年度第１回外国雑誌検討専門委員会
７月30日	平成16年度第２回附属図書館運営委員会
７月30日	平成16年度第１回附属図書館資料選定専門委員会
８月26日	平成16年度第２回外国雑誌検討専門委員会

千葉大学附属図書館報 InfoPort No.10
平成16年10月発行
編集・発行 千葉大学附属図書館
〒263- 8522 千葉市稲毛区弥生町1- 33
TEL: 043-290-2262
FAX: 043-290-2266
URL: http://www.ll.chiba-u.ac.jp/